

学びの居場所架け橋計画

～令和5年度 校内居場所（別室）対応指導員のモデル配置～

1 文京区の不登校の状況

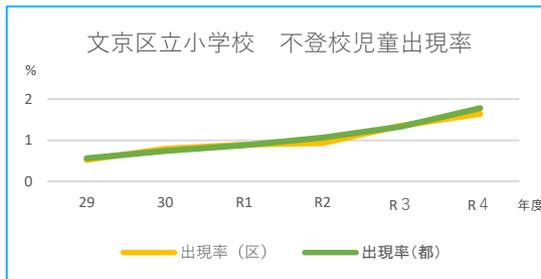
○令和4年度における不登校児童・生徒数（累積欠席日数30日以上）

【小学校】

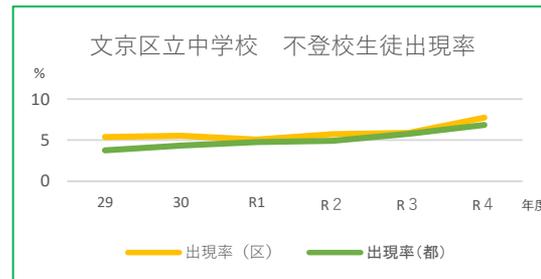
- ・令和4年度の不登校の総数は173名で、令和3年度の139名より34名増加した。
- ・年間の出現率は令和3年度の1.36%（139名）から1.64%（173名）と、0.28%上がった。

【中学校】

- ・令和4年度の不登校の総数は183名で、令和3年度の135名より48名増加した。
- ・年間の出現率は令和3年度の5.89%（135名）から7.74%（183名）と、1.85%上がった。



年度	不登校児童数(人)	区出現率：% (都出現率：%)
R2	91	0.93 (1.06)
R3	139	1.36 (1.33)
R4	173	1.64 (1.78)



年度	不登校生徒数(人)	区出現率：% (都出現率：%)
R2	125	5.75 (4.93)
R3	135	5.89 (5.76)
R4	183	7.74 (6.85)

2 校内居場所（別室）対応指導員モデル事業

<事業概要>

不登校児童・生徒が安心して教育を受けられるよう、学校における環境の整備の推進を図るため、令和5年4月から小・中学校のモデル7校で、学校内の居場所に、週5日1人の指導員を配置し学校内の居場所を確保することを目的として開始しました。

令和5年10月からは、モデル校を小・中学校10校まで拡充し、各校に別室で児童・生徒に対応するための指導員を週5日配置しました。

<モデル校実績>

令和5年4月配置（7校）

小学校：青柳小学校・窪町小学校・千駄木小学校・本郷小学校
中学校：第一中学校・文林中学校・茗台中学校

令和5年10月配置（3校）

＋ 小学校：金富小学校
中学校：第八中学校・第九中学校

<実施内容>

指導員は、不登校の兆候がある児童・生徒への早期対応等の方策として、教室以外の校内の別室において児童・生徒の学習活動の支援、見守り、関係教員との調整等の支援をしています。

<児童・生徒 利用者人数(人)> ※各学校で利用開始の確認を取った人数です。

	1学期末(7月)	2学期末(12月)	3学期末(3月)
小学校	36	50	66
中学校	14	29	37
総計	50	79	103

※4月～9月：モデル校7校 ※10月～3月：モデル校10校

3 事例を通じた成果と課題

成果

○昨年度は、ほとんど学校には登校できず、ふれあい教室への通室のみとなっていたが、徐々に学校へ登校できるようになった。また、スクールソーシャルワーカーと連携した支援により、校門の外から少しずつ学校の中へと足が進み、校内の別室に登校できるようになった。

○別室が校内の安心できる場所となっており、少しの時間は教室で学習に取り組み、他の時間に別室で息抜きをしながら学校で過ごすことができた。

○ある日、突然「勉強が分からない。」と言って学校に登校できなくなったが、まずは、別室への登校で児童の様子を見ることができた。その後、学びの教室担当教員と連携し、学びの教室の通室が決まり、安心して登校できるようになった。

課題

不登校の未然防止・早期対応のため、児童・生徒の小さな変化を見つけた際に、本人や家庭に対して、校内居場所の紹介や繋ぎを丁寧に進める必要があることから、チーム学校での取り組みが重要となる。

また、別室対応指導員は、教員とは異なり、原則1日6時間の勤務となっている。このため、養護教諭やSCとの情報共有や教員等と紙媒体での記録を共有する等、情報共有の工夫が重要となる。